

# いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員

## 岩井やすのり



プロフィール 1970 年生まれ 47 歳

早稲田大学大学院 政治学研究科修了  
H27 年 千葉県議会議員 2 期目当選

岩井やすのり 議員事務所

TEL : 0476-36-7799

HP : <http://www.iwai-y.jp> メール : [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)

印旛郡栄町安食台 2-26-23(栄町役場前大山ビル 2F)

## 補助金交付時期のずれこみ 障害者事業にも深刻影響

市町村やその他団体の運営に欠かすことのできない国庫補助金。近年は国の交付決定時期に遅れが見られ、運営資金のやり繰りなどにしわ寄せが出ています。

### 国による交付決定の遅れ 自治体運営に苦慮

特別天然記念物に指定されるカモシカによる農作物等に対する食害防止対策に、国宝重要文化財等保存整備費補助金という国庫補助金が活用されています。岐阜県や長野県等では、例年5月中旬ごろからカモシカによる食害が発生するため、遅くとも4月下旬から防護網の設置工事に取りかかりたいところですが、着手に必要な補助金の交付決定時期は例年9月下旬と遅く、やむを得ず内示があり次第着手するものの、この内示も6月下旬ごろとなるため、徹底した食害防止ができず苦慮しているといえます。



また、消防自動車等に関わる消防防災設備整備費補助金では、その交付決定時期は6~7月ごろとなっていますが、特殊擬装を伴う消防自動車を取得する場合には発注から納品までに数か月を要し、議会の議決や公告の期間などが必要な場合もあることから、年度内に事業を完了させることが困難と悲鳴をあげています。

### 点字図書館への補助金 交付は1年遅れの5月

さて、千葉県四街道市にある視覚障害者総合支援センターは、点訳や音訳図書等の製作、貸出し(点字図書館)をはじめ、歩行・日常生活の相談や訓練を行う

等、視覚障害者福祉の拠点施設です。これまでは佐倉市の社会福祉法人愛光が運営を行ってきましたが、「視覚障害者のための福祉は、視覚障害者の手で行えるのが理想」とし、この4月から視覚障害者団体である千葉県視覚障害者福祉協会(千視協)へ無償で移管されることとなっています。



視覚障害者総合支援センター

しかし、ここで問題となったのが運営費補助金の交付時期です。点字図書館としての機能を持つ同センターの運営には、国と県から人件費として年間6千万円ほどの補助金が交付されていますが、例年、実際に支給されるのは翌年度の5月と1年遅れ。つまり、毎月数百万円かかる人件費を工面しなければなりません。千視協も3月中に社会福祉法人化される見通しですが、視覚障害者が「手弁当」で運営する実態に変わりはなく、関係者は頭を抱えているのです。

### 「概算払い」の活用等 障害者支援に知恵絞る

補助金適正化法では、原則として交付決定後でなければ補助事業の執行ができないことになっており、近年は、国による交付決定時期のさらなる遅れが指摘されています。開始まもない団体や事業においては、その資金繰りに窮するケースも少なくなく、看過できる問題ではありません。

点字図書館の件では、例外として認められる「概算払い」を活用する等して、可能な限りの補助金の前払いができないかと知恵を絞っているところですが、さらに、福祉事業に関わる民間団体への融資制度づくり等も含め、県当局に働きかけを行ってまいります。

# オプジーボなど高額薬剤 医療保険財政圧迫の懸念

がん治療薬の「オプジーボ」、C型肝炎治療薬「ハーボニー」等はその高い効果が評価される一方、高額薬剤費による自治体財政への圧迫が懸念されています。

## オプジーボ 100mg73万円、1人年間 3500万円

オプジーボとは、平成26年に承認された、皮膚がん「メラノーマ」の新治療薬です。体の免疫を活性化させて、がん細胞を破壊する新しいタイプのがん治療薬で、手術ができないほど進行したがんを縮小させる等、これまでの抗がん剤にはなかった治療効果が確認されているといえます。

オプジーボは類似薬がなく、その希少性が認められることから100ミリグラム73万円と特に高額。患者1人あたりの月額薬剤費は290万円、年間で3500万円にもなります。それでも、メラノーマの発症数は国内で年間1500人弱であったことから、年間患者数470人程度、売上高も31億円ほどと見込まれていました。

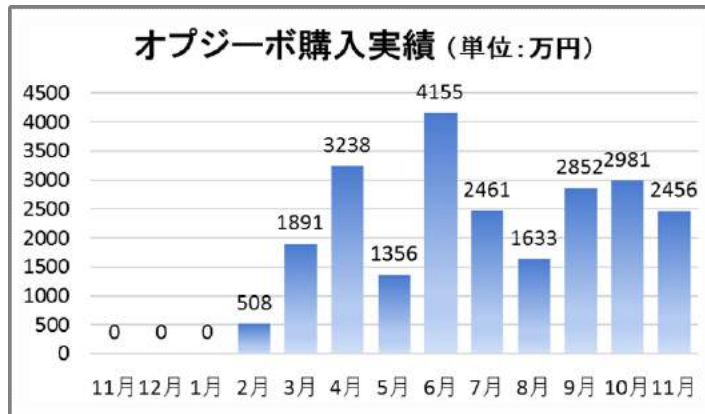
## オプジーボ購入額前年比10倍～県がんセンター

ところが、平成27年末に肺がんなどの効能が追加されたことにより状況は一変します。肺がん患者は全国に13万人いるとされ、仮に5万人を対象にオプジーボを1年間使うとすると、その薬剤費だけで1兆7500億円。この2月から値下げられたものの、それでも年間数千億円もかかることになるからです。

千葉県がんセンターでのオプジーボ購入実績を見ても、平成28年2月ごろから急増し、昨年11月まですでに前年度の10倍近くの2億1千万円にまで跳ね上がっており、影響の大きさがうかがわれます。

もちろん、高額療養費制度があるため、実際に患者に求められる負担額は月8万円程度で済みますが、薬

H28 県がんセンターのオプジーボ購入実績



剤費の高騰により国・自治体の医療保険財政が圧迫されれば、税金や健康保険料の値上がりにもつながりかねず、決して他人ごとではありません。

## 大学病院新設 近隣自治体国保財政を直撃

ところで、平成32年に成田市内に大学付属病院が開院予定となっていますが、ある医療関係者は「大学病院は高額・先進医療のかたまり」であるとし、新設大学病院でオプジーボをはじめとする高額薬剤が多用されることになれば、近隣自治体の国保財政への影響は甚大であるといえます。

薬価の引き下げ、適正化はもちろん、新薬の投与指針の策定、医療費が著しく増加した自治体への国による財政措置など課題は山積みです。先進医療の導入と国民皆保険の維持の両立を図るためには、高額薬剤・医療の費用対効果について、真剣に向き合わなければならない時代に入っていることは間違いありません。

## 高額薬剤「オプジーボ」

